

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	日本語における複合動詞に関する考察
Author(s)	ダワリカル アビラム ナラヤン,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 21期: 1 - 7
Issue Date	2007-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00038824
Right	
Relation	



日本語における複合動詞に関する考察

ダワリカル・アビラム・ナラヤン

はじめに：

複合動詞について考察するきっかけになったのは、日本語ではたくさんの複合動詞が使用されていて、自らは複合動詞をあまり使えないことに気づいたことである。そして、辞書にはすべての複合動詞が載っていない、現在は複合動詞だけの辞書はない、ということが興味深かった。なぜそれはそうなのかと考えたとき、複合動詞を作るにはかなりの自由度があることが理由なのではないかと思った。

日本語学習者が複合動詞を使えるようになるのはなぜ難しいのかが興味深い。このことについて認知意味論などの立場から従来研究がある。

自分の日本語能力を上げるため、複合動詞を勉強しなければならないと思った。このレポートはその試みの成果である。

自分は日本語の母語話者ではなく、学習者であることを意識しながら複合動詞について考えた。そして、複合動詞で出来上がる名詞も考察に含めることにした。

複合動詞と日本語教育：

複合動詞の習得は日本語教育の立場から非常に重要である。日本語学習者（以下「学習者」）は母語話者のように日本語ができるため複合動詞が使えるようになる必要がある。学習者が複合動詞を使えない理由の一つは、学習者は複合動詞に気づくのが遅いということである。

これは、学習者は初級レベルから複合動詞を意識させられないからである。これは現在の日本語教育の観点から重要である。動詞と動詞の組み合わせにはかなりの自由度があるが、間違った組み合わせで使ってはいけない。一つの動詞として認識される組み合わせもある。したがって、学習者にとっては意識的な複合動詞の学習が重要である。

初級レベルから複合動詞がまったく教えられないわけではない。学習者が複合動詞をまったく知らないわけでもない。しかし、学習者が考えるよりはるかに多くの複合動詞が日本語で使用されている。

学習者に積極的に複合動詞を意識させるため、指導者も複合動詞を意識しなければならない。指導者は母語話者であったり、そうではなかったりするが、母語話者も複合動詞を意識せざるをえない。しかし、母語話者にとって自分の母語について考えるのは難しい。母語は考えるための手段なので母語について考えるため努力が要る。したがって、かえって母語話者ではない指導者のほうが学習者に複合動詞を意識させることに成功

する可能性が高いと考えられる。特に、学習者と同じ母語の指導者は、「自分は学習するとき日本語のどこが難しいと感じたのか」がよくわかるので学習者と感覚を共有することができるだろう。

上級レベルに達する日本語学習者の就職機会：

殆どの学習者の場合、日本語のなかで複合動詞が多用されることに気づくのは、上級レベルに達してからである。

上級レベルに達する日本語学習者は就職のため日本語に頼る可能性があると考えられる。学習の年齢の範囲は幅広いが、特に若い学習者は就職のため日本語能力に頼る可能性がある。逆にいえば、日本語を学習すれば、就職の機会があると思いついで日本語を学習する若者たちもいるだろう。しかし、「日本語ができる」だけでは「就職ができる」とは限らない。学習者が就職の主な機会として考えるのは、翻訳や通訳の分野である。この分野では日本語以外の言語の能力も十分でなければならない。そして、日本語と日本語以外の言語がよくできるだけでは適切に翻訳や通訳ができるとは限らない。翻訳や通訳をするには語学力を含めて他のスキルも必要である。二つの言語ができることと、その二つの言語を互いに翻訳することは別のスキルである。

複合動詞の存在の理解は翻訳や通訳のため欠かせないものである。特に複合動詞を使用しない英語のような言語と日本語との相互翻訳の場合にはこれについて考えなければならない。複合動詞を使用する言語であってもその言語での複合動詞と日本語での複合動詞が必ずしも互いに該当するとは言えないだろう。

学術語としての日本語のメリット：

英語での学術用語、特に科学技術用語は、ラテン語やギリシア語などに基づくことが多い。

日本語での科学技術用語などのような学術用語の大半は漢語である。漢字と漢字の組み合わせで術語ができあがる。したがって、術語の要素となる漢字の意味が理解できればその術語の意味も直感的に理解できる可能性が高い。これは中国語の場合もいえるだろう。

例外：電気工学の分野では「Reactive Power」という術語がある。この術語を日本語に訳せば「反応電力」となるはずだが、現実には「無効電力」という言葉が用いられる。

「無効電力」の直感的な英語訳は「Ineffective Electric Power」となる。数が少ないが、直感的に意味を取ってしまうと間違いやすい術語も存在する。

上級レベルに達する日本語学習は漢字の知識が高いはずである。したがって、日本語を通して学術を勉強することは効率的であると考えられる。

そして、一つ一つの漢字が複雑であっても、漢語は、漢語ではない術語ほどスペースがかからない。小さなスペースの中でかなりの情報が蓄積できる。

機械や業種の組織に関する複合動詞に基づく言葉：

コンピュータ	：書き出し、取り出し、読み込み、置き換え、取り戻し、 切り取り、 貼り付け、並べ替え、番号を振り直し、差し込みマネージャ、 繰り返し
電子メール	：振り分け
CD	：読み出し
タクシー	：割り増し
バス	：切り上げ
カラオケ	：割り込み
自動ドア	：「駆け込まない、立ち止らない」
工事	：立ち入り禁止
テープレコーダー	：巻き戻し、吹き込み
図書室	：貸し出し、飲食物持ち込み禁止、閲覧用図書持ち出し禁止
銀行	：引き落とし、振り込み、取り扱い、預け入れ、引き出し、 取引、借り換え、払い込み、振り替え
自動販売機	：取り出し口
携帯電話料金	：割引、乗り越し
携帯電話	：差込
電車	：乗り継ぎ、乗り換え、踏み切り
紙カップリサイクル機械	：飲み残し入れ、払い戻し口
会社	：取締役
警察	：飲酒運転取り締まり、とり調べ
コンテスト	：締め出し

以上の例は身近な例であって、文献を参考にしなかったことを指摘したい。術語や専門用語とは言えないかもしれないが、以上の言葉はそれぞれの機械、または業種の組織に関するものとは言えるだろう。

複合動詞と科学技術語：

科学技術日本語は主に漢語とカタカナ語と基本文法でできている。文学的な表現や敬語などは科学技術日本語では用いられない。しかし、科学技術日本語では複合動詞が多用されている。例を挙げておく。

科学技術語の論文で頻繁に使われる複合動詞：取り入れる、見出す、導き出す、書き表す、言い表す、あり得る、成り立つ、取り扱う、言い換える。

以上の殆どの複合動詞は方程式やその描写に関する。

科学技術的な動作の描写で使用される複合動詞の後項動詞:「～合う」、「～合わせる」、「～出る」、「～込む」、「～入れる」、「～出す」、「～得る」など。

以下に科学技術日本語での複合動詞を使用するいくつかの文を述べる。日文に該当する英文も述べておく。その英文をまた日本語に訳せば原文と同じ日文ができあがるのが興味深い。

A. 「～合う」は、二つのものは互いに関係があることを示す。

1. 点 A と点 B とに対応する二つの位相は、その圧力 ps の下に互いに釣り合い、一方は液体、他方は気体の状態と解釈される。

The two phases corresponding to point A and point B **are in equilibrium** at the pressure ps and may be interpreted as liquid on one hand and gas on the other.

2. 血餅は繊維状のフィブリンが血球と絡み合っていて固まっているものである。

The blood clots are a hardened mass of red corpuscles **intertwined** with thread-like fibrin.

3. 明暗の線が隣り合っていて、干渉縞を作ることになる。

Bright and dark lines **adjoin each other** and interference bands are formed.

B. 「～込む」や「～出る」や「～出す」は液体などの方向を表す。

1. 電池では、電流が針金から流れ込むほうの金属を負電極(陰極)と言い、電流が針金へ流れ出るほうの金属を正電極(陽極)と言う。

In an electric cell, the metal **into** which electric current **flows** from the wire is called the negative electrode (cathode), and the metal from which electric current **flows out into** the wire is called the positive electrode (anode).

2. 静脈は、体の各部から心臓に血液を送り込む血管である。

Veins are blood vessels, which **channel** the blood **back into** the heart from all parts of the body.

3. 動脈は、心臓から押し出される血液を体の各部に運ぶ血管である。

Arteries are blood vessels, which carry the blood **forced out** from the heart to all parts of the body.

4. スリット S2、S3 からは光の回折の結果、同じ位相の波が次々に送り出されている。

As a consequence of the diffraction of light, waves of the same phase **are sent forth** successively from slit S2 and S3.

C. 「繰り返す」という動詞が何回も出てくることは興味深い。

1. これを数回くり返して、ショウノウの高さが約 3 mm になるまで詰める。
Repeat this procedure several times until the camphor is packed in to a height of about 3mm.
2. 音波のうち最も簡単なものは、各点で、その空気が音のくる方向と平行に前後に振動をくり返すものである。
Among sound waves the simplest case is that for which the air at each location **repeatedly oscillates** back and forth parallel to the directions from which sound comes.

以下に動作を具体的に描写する前述以外の表現を述べておく。

1. これは押し縮めることのできない液体の性質を示している。
This expresses the nature of an **incompressible** fluid.
2. すなわち、物体が付近の流体を次々に引きずり、引きずられた流体が物体に摩擦に似た力を及ぼすようになる。
That is to say, the body **drags along** successively the neighbouring fluid, and the fluid thus **dragged along** exerts a force akin to friction on the body.
3. たとえば回転砥石にナイフを押し当てて研ぐときには火花が飛び散り、ブレーキをかけて自動車を止めるときには、車輪やブレーキが熱くなっている。
For example, when we **press** a knife **against** a rotating grindstone, sparks **fly off**, and when we apply the brakes to stop a car, the wheels and the brakes become hot.
4. その方法は原子から電子をいくつかはぎ取って正のイオンとして、電界または磁界の中を走らせたとき、質量大きいものほど曲げられにくいことを利用する。
This technique utilizes the fact that the larger masses are more difficult to deflect when the atoms, **stripped of** some of their electrons, are made to stream through electrical and magnetic fields as positive ions.
5. この模型では、光は、電子が一つの軌道から他の軌道に飛び移るときに放出、または吸収されると考えられる。
In this model, the emission and absorption of light are believed to occur when the electron **jumps from one orbit to another**.
6. 気体を構成する分子は有限な直径 σ のかたい球であると考えれば、分子が理想気体の分子のように自由に動き回ることのできる空間の容積は実際の容積より小さい。
If we think of the molecules, which constitute a gas as hard spheres of finite diameter σ , then the volume of space in which the molecules can **move about** freely, as molecules of ideal gases do, is smaller than the actual volume.
7. 水中にある物体が浮き上がって見えたりするのはこのためである。
This is why bodies in water **appear to be lifted** towards the surface.

科学技術日本語での複合動詞の使用を観察してみると、動詞と動詞の結合にかなりの自由度があることがわかる。これは、一つ一つの動作に応じて複合動詞が作られるからである。

科学技術日本語でも複合動詞が多用されるのは、複合動詞を使用すればある動作をより具体的に表現できるからである。例外もあるが、複合動詞は動作をわかりやすくすることが多い。

科学技術日本語での複合動詞の存在は、複合動詞は日本語の基礎の一つであることを示す。翻訳や通訳の分野では、訳される言語のかなりの部分は科学技術語である。例として、国際特許に関する用語が挙げられる。したがって、日本語学習者は科学技術語を学習することは望ましい。前述のように、複合動詞の存在の理解は翻訳や通訳のため欠かせないものである。

日本の企業は日本語の知識を持っている外国人技術者を求める。科学技術者にとって科学技術日本語は重要である。

日本語を通して学術を勉強すること、複合動詞を意識することは、就職のため日本語に頼ってしまう可能性が高い上級レベルの日本語学習者、特に日本語を専門とする学習者の助けになるだろう。

結論：

1. 複合動詞は日本語の基礎の一つである。
2. 動詞と動詞の結合にはかなりの自由度がある。
3. 科学技術語では複合動詞が大きな役割を果たす。
4. 日本語学者に初級レベルから複合動詞を意識させる必要がある。日本語の指導者も複合動詞を意識する必要がある。
5. 科学技術日本語では「～出る」、「～込む」のような方向を示す後項動詞と「～合う」のような相互関係を示す後項動詞は頻度が高い。
6. 漢語は語源が明確で、漢語を使用すれば効率的なデータ蓄積が可能である。
7. 日本語を通して学術を勉強することは効率的である。
8. 複合動詞と学術用語の知識は日本語が専門である学習者と、そうではない日本関係の仕事をする外国人技術者の就職の立場から役立つ。

これからの目標：

複合動詞を使えるように努力して、複合動詞は語彙的なのか統合的なのかを意識できるようになる。複合動詞の構成要素となる前項動詞と後項動詞それぞれの意味と複合動詞の全体的意味の関係を研究していく。

参考文献：

1. Daub E.E., Bird R.B., Inoue N. 1975. *Comprehending Technical Japanese*. The University of Wisconsin Press, University of Tokyo Press.
2. Tagashira Y., Hoff J. 1986. *Handbook of Japanese Compound Verbs*. Hokuseido.
3. 伊藤たかね・杉岡洋子 2002. 『英語学モノグラフシリーズ 16 語の仕組みと語形成』 研究社
4. 影山太郎 1993. 『文法と語形成』 ひつじ書房
5. 国立国語研究所報告 68 1981. 『専門語の諸問題』 秀英出版
6. 姫野昌子 1999. 『複合動詞の構造と意味用法』 ひつじ書房
7. 松田文子 2004. 『日本語複合動詞の習得研究：認知意味論による意味分析を通して』 ひつじ書房
8. 名柄 迪 監修：新美昭和・山浦洋一・宇津野登久子 著者 1993 三版. 『外国人のための日本語 例文・問題シリーズ 4：複合動詞』 荒竹出版